

## 不活化ポリオワクチン

2011.06.01

函館近郊のインフルエンザB型の流行は収束に向かい、今は感染性胃腸炎や溶連菌性咽頭炎が流行中です。おたふくかぜや水痘の流行も収まっていますので、おたふくかぜ、水痘のワクチンをこの時期にぜひ行ってください。

今年5月に東京都から経口ポリオワクチンを飲んだお子さんがポリオ関連麻痺を発症したという報告がなされました。これは、口から飲んだポリオのワクチンが腸の中で何らかの原因で毒性が強くなり、飲んだお子さんにポリオと同じ症状を出してしまうというものです。今までは約400から500万接種に1回の割合で起きるとされていましたが、最近の報告を見ると少し頻度が増えているようです。

厚生労働省は来年度後半からの三種混合ワクチンと不活化ポリオワクチンの混合ワクチンの接種を言明しましたが、同時に不活化ポリオワクチン単独の接種も認可に向けて動き出すとのことでした。

現状の経口ポリオワクチンは昭和35年のポリオの大流行から接種が始まり、現在まで改良を重ねながら使われているワクチンです。厚生労働省もポリオ関連麻痺がでたからといって現状のポリオワクチンを中止にするなどの判断はしていませんし、安全性が著しく心配なものでもありません。

しかし、僅かな副反応も起こってしまったお子さんにとっては重大な事象です。不活化ポリオワクチンを取り扱っているのは道南では2ヶ所の小児科です。接種方法、料金、その他了解していただかなければならない事柄など様々ありますので、取り扱っている小児科にお問い合わせください。

今回の報道で心配なのはポリオに関連して三種混合の接種率が低下することです。これには過去に接種率が低下して百日咳が流行し、死亡例が出たことがあります。これだけは絶対に避けなければなりません。どうか、報道に惑わされずに現行の三種混合ワクチンの接種も子どもの命に関わる問題ですので、3ヶ月になったら確実に行ってください。